

オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）

部門：農山漁村イキイキ実践部門

特定非営利活動法人 おちかアイランドツーリズム協会（長崎県小値賀町）



小値賀島は西海国立公園内に位置する島で、今日まで半農半漁・自給自足の生活を守り続けてきたが、近年では、島の暮らしの不便さから人口流出が進み、以前1万人いた人口も、3千数百人まで減少するなど過疎が進んでいる。

合併をせず「町の自立」を選択したことも影響して、平成17年度に有志が中心となり、「自然や暮らしをそのまま生かした体験型・滞在型観光による地域振興」を目指そうと「ながさき・島の自然学校」と「小値賀町アイランドツーリズム推進協議会」が活動を開始。

平成19年度には、観光協会を合わせた「NPO法人おちかアイランドツーリズム協会」を設立し、小値賀のコンシェルジュ機能として、個人・団体、国内外を問わず、あらゆる顧客の要望に応じた「おちかの島旅」のコーディネートを一括して行う、島のワンストップ窓口として取り組んでいる。観光相談から、島民がインストラクターとなって提供する自然・文化体験などの様々なパーツを組み合わせるオリジナル滞在プランの作成、来島の受付から体験料等の支払いまでを行うシステムを確立している。

平成19～20年に取り組んだ、アメリカの民間教育団体『ピープル・トゥ・ピープル』による国際親善大使派遣プログラム（以下PTP）では、住民、行政、ボランティアなど全島をあげて体制を整え、約1ヶ月の間にアメリカの高校生約180名を、3泊4日で受け入れ、民泊、自然体験、学校交流などのプログラムを行った。島をあげてのおもてなしを展開し、このプログラムに関わる島人は、人口3000人の島でのべ2000人にもものぼった。その結果、世界各地のPTP全プログラムにおいて、小値賀を含む長崎プログラムが2年連続世界一の評価を得ている。

初年度の実績は総収入約6,000万円、集客数約6,000人泊が、平成20年度には総収入1億円、集客数約8,000人泊、事務局常勤スタッフも2名増え9名となった。非常勤として活動を支える会員は約100名、当初10軒にも満たなかった民泊事業も約50軒に増え、若者が体験インストラクターとして活動し始めるなど、全島に社会的・経済的効果が現れてきている。

国内外のあらゆる顧客ニーズに対応した受け入れ体制を整え、NPO活動は2年目ながら、行政からの運営補助金を受けず、事業収入で人件費等の経費を賄うなど、自立的経営を成り立たせている。町の委託で運営する宿泊施設「野崎島自然学塾村」の売上の一部を環境保全基金として町に寄付するなど、経済的な循環も生み出している。島全体が一体となって滞在型観光を推進し、小値賀島の活性化に大きく貢献している点が高く評価された。（「JTB交流文化賞」（株式会社ジェイティービー）よりご推薦。）